

石巻市内で活動している社会福祉法人のご紹介

第4回インタビュー

社会福祉法人なかよし会

平成28年4月から改正社会福祉法により、社会福祉法人による「地域における公益的な取組（社会貢献事業）」の実施が法人の責務として位置づけられました。

この取組は、次の3つの要件をすべて満たすことが必要となります。

- (1) 社会福祉事業または公益事業を行うに当たって提供される「福祉サービス」であること
- (2) 「日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者」に対する福祉サービスであること
- (3) 無料または低額な料金で提供されること

具体例としては

- ・ 夏祭り等、イベントの開催による住民間のつながりの再構築
- ・ 働き手が少ない商店街との連携による就労支援
- ・ 公共交通機関がない地域での移動支援や買い物送迎支援
- ・ 災害支援ネットワークによる避難所支援
- ・ 刑余者の自立支援に向けた自立準備ホームの登録

などが挙げられます。

石巻市内にはたくさんの社会福祉法人がありますので、実際にどんな社会貢献事業に取り組んでいるのか、順番にご紹介していきたいと思います。

今回は「社会福祉法人なかよし会」さんをご紹介します。

インタビューにお答えくださった方は、なかよし保育園園長の千葉美絵さんです。

社会福祉法人なかよし会

- 法人所在地 石巻市中里三丁目10番7号
- 電話番号 0225-96-4551
- ウェブサイト <http://nakahoi.jp/>
- 設立年月日 昭和59年8月26日



■事業

保育所、地域子育て支援拠点事業、一時預かり事業

■施設・事業所

なかよし保育園、石巻市立釜保育所、なかよし保育園地域子育て支援センター
釜子育て支援センターあおぞら

■社会貢献事業

- (1) 地域の親子と繋がる機会の構築 ～出張子育て支援センター～

4月から11月の毎週土曜日、北上公園に向いて公園に遊びに来ている親子と一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたりしながら、子育ての悩みを聞いています。

引っ越して間もなくして知り合いがいなかったり、子どもと一緒に遊べる場所が分からなかったりするお母さん等、様々な悩みを抱えていらっしゃる保護者の方もおり、そんな悩みを少しでも解決できるよう、チラシ等でセンターを知ってもらい、気軽に相談できる支援センターとして関わりを繋げながら、地域における支援に取り組んでいます。

- (2) サークル活動の支援

保育園や支援センターを通して繋がりができた保護者のみなさまが集まって、情報交換や日頃の悩みの共有する場としてのサークル活動が行われており、その支援を行っています。場所を提供したり、子育ての相談に応じたり、サークル行事の運営サポートを行っています。

- (3) 各種イベントやサロン等を通しての地域での交流促進

おじいさんおばあさん世代とお孫さんとを対象とした孫育てひろばや、助産師さんグループに協力いただいていたのベビーマッサージ、また主任児童委員さんとの子育てふれあいサロン等の様々な事業を、地域のボランティアさんや関係機関の協力をいただきながら実施し、交流の促進を図っており、これからも施設は、地域の交流拠点としてあり続けたいと考えています。

—今回は保育また子育て支援を担う社会福祉法人として、なかよし会さんのご紹介です。社会貢献事業について、お聞かせ願います。

千葉：保育園でお預かりしている子どもの保育はもちろんですが、法人として保育園（なかよし保育園・石巻市立釜保育所（指定管理））が2か所あり、両園で地域子育て支援センター（以下「センター」）を運営しています。

そのセンターを地域の方、特に子育てしている中で一息つきたかったり、子育てに悩みを抱えたりしている親御さん、他にも、他県から引っ越してきて遊ぶところが分からなかったり、知り合いがいなかったりするお母さん方にご利用いただいております。

センターの利用を通じてママ友ができ、病院や公園の情報を教えあったりして、それをきっかけに、もう10数年お友達としてお付き合いをされている親御さん方もいます。そういった面で地域への貢献ができていますのかなと思います。

中里のセンターではコロナ禍のため、親子5組に限定させてもらい、予約制で受け入れをしています。釜保育所では、支援センターの部屋も広いので、その広さを活かし、感染予防に留意しつつではありますが、自由にご利用いただいております。

また、センターでは情報交換や日頃の悩みの共有する場としてのサークル活動が行われていますが、その支援として、

場所の提供等を開設当初から行い、サークル活動のサポートもしております。



なかよし保育園園長の千葉美絵さん

各種講座や人気のある行事もコロナ対策を考慮し、数組には限定しつつも、駐車場が埋まるくらいにご利用をいただいております。

例えば、昨今、お母さんがお仕事に出ていて、おばあちゃんが面倒を見ているご家庭も多いかと思うのですが、中里のセンターでは、「孫育て広場」というイベントも行っており、おばあちゃんとお孫さんでお越しいただき、遊んでいただいたりもしています。「孫育て広場」は「ツイズデー」と共に双子ちゃん達にも遊びに来てもらいます。年度によっては三つ子ちゃんがいったりもします。家族みんな来て1対1でゆったりと関わり遊んだりしてご利用される方もいます。

他にも、両センターで、赤ちゃん教室、親子教室等、ある程度同じくらいの年齢のお子さんたちを中心に教室を実施しており、石巻市の歯科衛生士さんによる歯科教室、助産師さんグループによるベビーマッサージ、主任児童委員さん方によ

る子育てふれあいサロン等、いろんな繋がりの中で協力をいただいています。

最近では、中里地区にある「中里28会」の方々がボランティアと一緒に遊んでくださり、地域の方々と交流をしながら、支援センターは盛りだくさんの事業等を行っております。

石巻市社会福祉協議会さんからの助成金を活用した人形劇も、年に1回ずつ両センターで実施し、皆さんとても楽しみにされています。

また、なかよし保育園だけになります。が、一時預かり事業も行っております。1日10人までの受け入れで、保育園や幼稚園を利用していないお子さんを対象とし、年間で1,600人から1,800人くらいのご利用があります。親御さんのご用事やお仕事の都合、下の子が生まれて手が掛かる間などにご利用なさる方が多いです。

保育園ならではの、給食も提供しており、お友達と一緒にトイレに行くことでトイレトレーニングに繋がったり、毎日顔を合わせのお友達は違いますが、仲の良いお友達ができて、子どもたちの世界の中でのいろんな関わり、やり取りを経験したりしながら、子どもたちは楽しく過ごされています。

——お話を伺って地域・関係機関との密接な繋がりが感じられます。

千葉: そのような地域との繋がりや、様々な機関等との繋がりを大事に長年、法人

としても取り組んできました。

中里のセンターでは、毎週土曜日には北上公園に出向いて、出張支援センターのような形で、公園に遊びに来ている方々に声をかけながら、20分程度の時間ですが、一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたり、踊ったりしています。

中には「引っ越してきたばかりで、知人もおらず、この辺りのことが分からないんです」などという方もおり、支援センターのチラシをお渡しして、「どうぞセンターにお気軽にお越しください」とお声がけしています。この取り組みを11月まで行い、12月から3月は中里のセンター2階を開放して遊びに来ていただいています。



育児支援事業の様子

——盛りだくさんの取り組みですね。

千葉: コロナ禍のため実施できていませんが、毎年6月には「なかよしバザー」を企画して、保護者の方々と一緒にバザーをし、かき氷や焼きそば、みそおでん等を作ってみんなで食べて、子どもと親御さんで楽しむのはもちろん、地域の方々にもお越しいただいて楽しんでもらっております。

8月にはお祭りも実施しており、こちらでも地域の方々に参加いただいています。お化け屋敷もあり、地域の小学生なども楽しんでくれています。

コロナウイルス感染症の影響で実施できないのが寂しい限りですが、地域の方は本当に楽しみにしてくれていて、「バザーはしないんですか」とお電話をくれるくらいです。



夏祭りでの金魚すくい

——地域の方々が楽しみにしてくださっているのは、本当にありがたいことですし、法人としても嬉しいことです。

千葉：いつも子どもたちの声が大きいので、ご近所にご迷惑をおかけしないかと思うところはあるのですが、ご近所の方々はとても良くしてくださって、地域に受け入れていただいていることで様々な取り組みができています。

釜保育所に関しては、震災の影響を受け、何もなかったところから保育園ができて、そこに通う子どもたちが増えました。あの周辺は復興住宅も多いので、

ひょっとしたら子どもたちの声が聞こえることに喜んでいただいているのではないかと考えております。そこで、ハロウィンの催しを釜保育所で行うときは復興住宅や周辺の地域にもお声がけをしています。

釜地区の町内会には、とても快く受け入れていただいているようで、町内会の夏祭りにご招待をされています。コロナ禍で制限はあるものの、町内会の方々と一緒に夏祭りに関われるのが大変ありがたいと考えております。

また、敬老会にも参加し、子どもたちの出し物を披露したりもしています。保育園が地域により一層受け入れていただけるよう、これからも地域の繋がりを大事に取り組んでいます。

——先ほどお話のあった中里公園に出張しての取り組みなどとても良いことですよ。

千葉：公園に来られる方はまだ良いです。自分で遊びに出かけようといった、気力・体力がある方は、いろんなところへ出向いてお話ができると思います。

でも、家の中で、「どうしようかなあ」と悩んでいる方々も実際にいらっしゃいます。

コロナ禍で当初、センターが閉鎖となってしまう、担当職員もどこへも出られないという状況がありました。担当職員として、閉じこもりになり家の中でずっと親と子どもと一緒に、息の詰まっている

方とかいないのかなと気にかかり、何かできないかと気を揉んだりもしていました。

最近になって、ようやくセンターを利用できるようになりましたが、そういう状況もあったので、利用されている方に、利用して本当に良かったと思ってもらえるセンターを目指しています。



みんなで楽しく泥んこ遊び

——昨今、児童虐待が増えており、いろいろと要因はあるかと思いますが、虐待防止といった面でも私たち社会福祉法人の果たす役割も大きいものがありますよね。

千葉：支援したいと思っても、センターにいらしてから初めて支援ができるので、お話を聞きながら、そのなかで子育ての悩みを聞いています。

また、お話が終わってセンターからの帰り際に一時預かりのお部屋を見て、「子どもたちが楽しそうに遊んでいますね」と親御さんたちが見ていくことで、保育園を利用していなくても一時預かりが利用できるんだと知り、「私も少し預かってもらいリフレッシュしてみようかな」と

思う機会になったりしていると思います。

しかし、一時預かりも、去年は10月から予約がなかなか取れない状況でした。例年、年度末になると幼稚園の入園に向けて「トイレトレーニングをやらなくちゃ」、「ちょっと集団の環境に慣れさせたい」ということで、急に一時預かりを利用される方が増え、毎年2月、3月は予約がひっ迫することあったんです。

ただ、昨年に至っては、なぜかコロナ禍なのに10月くらいから予約が多く、2月分の予約受付の際は受付開始から半日で、3月分の予約受付も開始から50分で埋まってしまい、それだけ利用を求める方が増えているんだと感じました。

一時預かりで預ける親御さんはいろいろ相談をされていくので、誰かと繋がりたい、お話をしたい、話を聞いて欲しい、そんな親御さんも多いのかなと思います。

——最近、男性の育児参加が多くなって来ているかと思いますが、お父さんから相談を受けることなどありますか。

千葉：今のところ、お父さんからの相談はあまりないですね。でも比較的、私たちの保育園ではお父さんたちの出番も多く、運動会では各クラスのお父さん対抗の種目があったりします。お父さんたちは、お母さんたちほど頻繁には会わないし、お互い喋る機会も少ないのですが、そういった行事の際などに意気投合して、その結果、「おやじの会」ができました。

12月の発表会、クリスマス会で親御さんの出し物もあるんですが、そこでもお父さん方が入念に打合せをし、漫才や戦隊ヒーローの恰好といった出し物を披露してくれたりしています。



なかよし保育園 園舎

—女性と違ってネットワークづくりが少し苦手なお父さん方に園の事業を通じて子育ての役割を持ってもらい、お父さん同士の繋がりができるのはとてもいいことですね。

千葉：お父さんたちは「保育園の送迎などもお母さんがやるべきじゃないの」とか思ったりするかと思うのですが、おやじの会や事業を通じて、お父さんたちもいろんな話をしたり、他のお父さんが保育園の事業に参加したりしているのを見ていくうちに、だんだんお父さんたちなりに役割を見つけて、楽しみにしてくれていることが多くなってきています。

そのような機会を通じて、親御さんたちすごく仲良くなっています。卒園してもその繋がりが続いています。また、お母さんたちだけでなく、お父さんたちも、自分の子ども以外のお子さんのこともす

ごく分かっています。

法人として設立した当初から、保護者会と法人と職員とが常に連携を図っています。もともと無認可から始まった保育園でして、無認可時代には、朝から夕方まで預けられる保育園を作ろうということで、その当時の保護者の皆さんにもお力添えをいただいた経緯があり、それを経て認可保育園となっているので、保護者あつての保育園、保育園あつての保護者という思いが双方に強く、保護者の方と保育園との繋がりはとても大事にできています。

—そうすると、保護者の方々も園の運営に関わっているという実感が持てますね。

千葉：現在の理事には、保護者会のメンバーだった方もおり、ずっと保育園を見守ってくださっているという状況です。

—ウェブサイトを見ましたのですが、行事等を通じて、地域の事業所等との繋がりが多いですね。

千葉：ハロウィンの行事では、JAさんに協力していただいたり、高齢者施設にお邪魔させてして利用者の方と一緒に歌を歌ったりし、地域の関係機関等に訪問しています。

また、園で焼き芋を作った際など、ご近所にお配りしたり、釜保育所では地域の方とお芋を一緒に収穫したりもしています。



釜保育所 園舎

——地域との繋がりには本当に大切に、東日本大震災の際は特に感じられたかと思うのですが、震災当時はどんな状況でしたか。

千葉：なかよし保育園の敷地は、道路より少し高くなってはいますが、30センチ位の浸水があり、4日間、水が引きませんでした。

センターが2階建てでしたので、そこに避難して、親御さんのお迎えを待つ状況でした。胴長をはいて、浮き輪を持って、ロープを張りながらお迎えにいらした親御さんもおりました。

現在、なかよし保育園でも釜保育所でも、親御さんには「災害発生時には慌てて迎えに来ようとしないでください」と伝えていきます。海に近い釜保育所では、近くの復興住宅の4階に避難場所として提供してもらえることになっているので、子どもたちは職員がしっかりついていて一緒に待っていますので、安全に来ることができるようになるまでは絶対に無理はしないでくださいと親御さんには必ず話しています。

——最後に、PRや今後の展望等お聞かせいただけますか。

千葉：給食の面では、おやつも給食も完全手作りです。お子さんを朝から夕方まで長い時間お預かりしますので、おやつもご飯とご飯の間の補食になるように、お腹にたまり、体に優しいものとなるように給食担当の先生がすごく考えてくれています。

また食材は石巻市内の業者から仕入れ、国産のものにこだわっています。

今後の展望としては、親御さんや地域の方からはもちろん、行政・関係機関等からも、求められるような法人であり続け、外部にこうしてもらいたいと望むのではなく、まずは自分たちがしっかり頑張っていて、そして、保護者の方々等にまたお願いしますねと言ってもらえるような法人であり続けたいと役員一同思っています。

設立当時から保育に対し大事にしているものをこれからも大切にしつつ、時代の流れに沿って新しいものも取り入れながら頑張っていきたいと思います。



みんなで元気に雑巾がけ

— インタビューを終えて —

法人設立が昭和59年と歴史のある法人の「なかよし会」さん。インタビューを通じ、法人として地域との関わりの重要性を実感され、長年、地域との繋がりを大切に法人運営や事業実施をされていらっしゃったのを感じました。

保育という現場で、想像以上に大変なことも多くあるのではないかと思います。未来を担う子どもたちは地域の宝物でもあり、健やかな成長のために、今後とも是非ご尽力をお願いいたします。